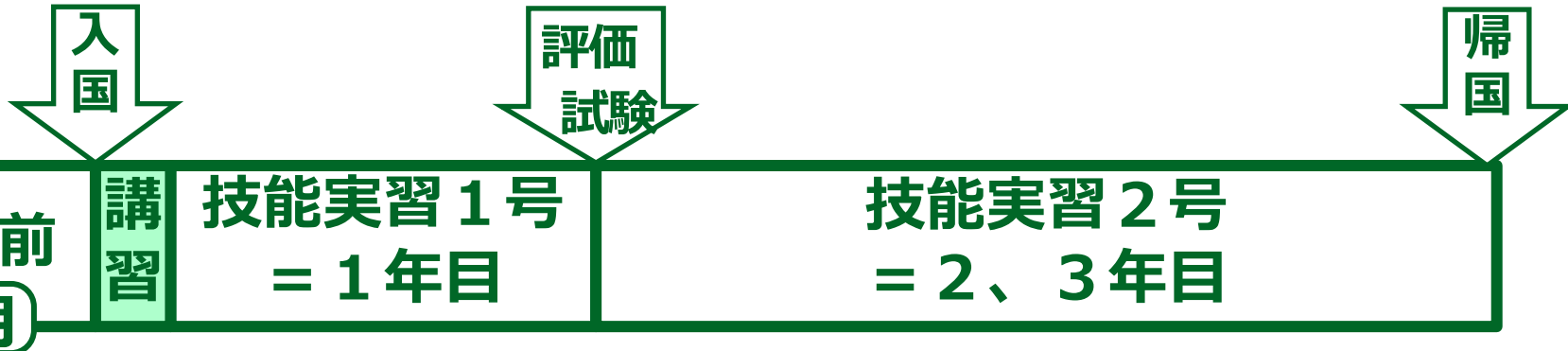


外国人技能実習生

- 技能移転による人材育成（日本語を介して学ぶ）
74職種、133作業（金属、繊維、農業、建設、食料品…）
- 約20万人（1年目～3年目）＝「留学生」に匹敵
- 帰国する人（最長3年）
- 中国、ベトナム、インドネシア、フィリピン、タイ…
- 限定的な年齢層（20代～30代中心）
- 単身
- 募集 → 選考 → 採用
- 多くは入国前日本語学習歴あり（3～6ヶ月程度）
- 日常生活では周囲の関係者のケアがある

技能実習の流れの例



監理団体 (●▲協同組合、★◆水産加工組合、etc.) 約2,000

送出し
機関

実習実施機関 (■●金属、▼★農園、etc.) 約20,000

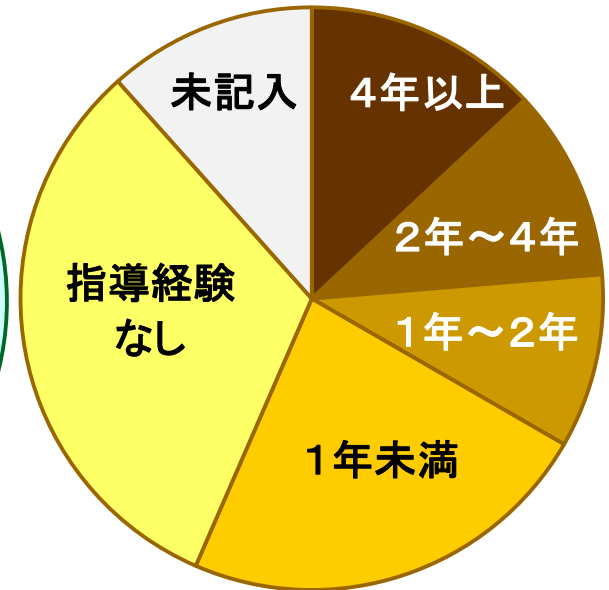
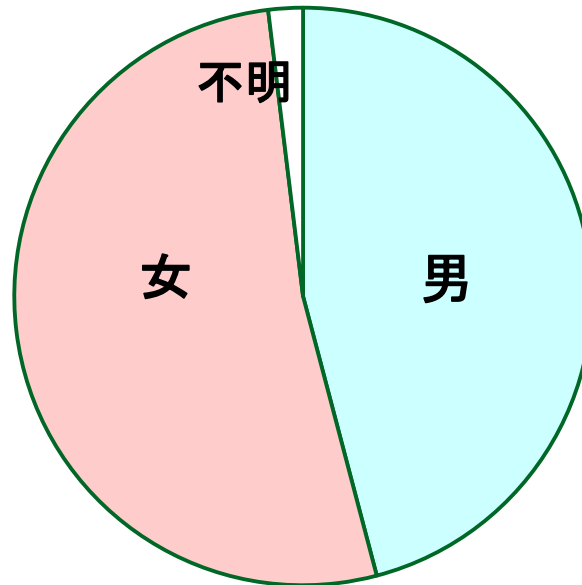
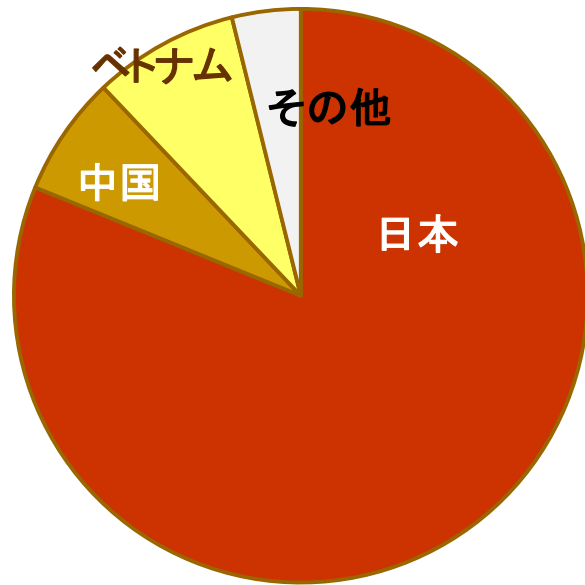
- ◆ 「講習」(約1ヶ月)の内容 <法務省入国管理局の指針 2009年>
 - ① 日本語 ② 生活一般に関する知識 ③ 法的保護に必要な情報
 - ④ 円滑な技能等の修得に資する知識
- ◆ 「講習」の日本語指導員
 - A “日本語学校”に依頼
 - B 監理団体の職員
 - 1 日本語教育○ 技能実習制度？
 - 非専門 2 日本語教育× 技能実習制度○

「非専門（B2）」の日本語指導担当者

- 必要に迫られて日本語を教えることになった
 - 日本語教育関連の学習経験がない
 - = 外国人の視点で日本語を見る経験がない
 - 日本語教育の現場を見た経験がない
 - 共通言語がない → 「通訳」の必要性
 - 時間的・経済的ゆとりがない
-
- ◆ 外国語学習経験：学校教育程度
 - ◆ 言語教育観：自身の学校教育での授業経験に基づく

JITCOの支援

日本語指導セミナー受講者(参加者アンケートより)



内容：「非専門」日本語指導員が 講習の授業をするために

- ◆ 概要(教材、環境整備 etc.)
- ◆ 講習(約1ヶ月)の指導計画の考え方
- ◆ 日本語模擬授業体験
- ◆ 既習事項を「使える」ようにするための練習
- ◆ 「非専門」も使える教材の紹介と“ミニ実習”

求められる資質・知識・能力① (B2も)

能力 (スキル)

- 日本語既習の技能実習生が理解可能なように、日本語をコントロールして使うことができる
- 技能実習の現場から学習が必要な日本語表現等を拾い出すことができる
- 技能実習生の現実をふまえて教科書等から授業で扱う項目を取捨選択できる
- 技能実習生の日本語運用力向上を目指した授業活動を企画・実践することができる

求められる資質・知識・能力② (B2も)

知識

- 技能実習制度に関わる知識

資質

- 粘り強く練習につきあうことができる
- 技能実習生に対して対等な立場で接することができる
- 技能実習生の状況に応じて励ますことができる
- 周囲の人々の日本語使用に改善を求めることができる

「伝わる」ために ～ 周囲へのはたらきかけ ～

- 日本語の「見える化」
- 日本語のコントロール

実習生は
日本語が
できなくて
困る



いつきたの？

めしくった？

終わったら
言って

人材の養成・確保における課題

- 日本語教育“有資格者”から見た
「日本語を教える職場としての技能実習の現場」
 - ・ 入国時期
 - ・ 入国人数

- あらまほしい人材

日本語教育のバックグラウンドのある「監理団体職員」

- ・ 日々の業務の一つとしての日本語指導
- ・ 技能実習生と周囲の人々の両側に働きかける存在